

皆さんが納めた税金や国・県からの支出金、地方交付税は、どのように使われたのでしょうか？昨年度の南国市の収入と支出についてお知らせします。

総括 5億8,861万8千円の黒字 借金である地方債借入残高は増加

南国市の平成28年度普通会計の決算状況は、歳入が225億7,812万円、歳出が217億4,710万2千円で、歳入歳出差引額は8億3,101万8千円となりました。翌年度への繰り越し財源2億4,240万円を除くと5億8,861万8千円の黒字となります。

地方債借入残高は、平成28年度末残高185億1,497万円、対前年度比5億1,064万3千円(2.8%)の増となっています。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率は90.2%と対前年度比で2.6ポイント増加し、財政の硬直化が進んでいます。

今後も、公債費負担適正化計画などにより、健全な財政運営確立に向け財政改革を進めていきます。

また、歳入の根幹をなす市税総額は8,797万2千円の増額となり、地方交付税は2億1,748万4千円の減額、地方交付税を穴埋めする臨時財政対策債も1億8,575万1千円の減額となりました。

歳出

普通建設事業費の増加による
歳出総額は増額

歳出総額は、217億4,710万2千円で、前年度決算額に比べて14億5,226万3千円(7.2%)の増額となっています。

性質別歳出の状況は、義務的経費のうち人件費は、2,266万3千円(0.8%)の減額となりました。扶助費は、年金生活者等支援臨時福祉給付金事業費などの増により、3億9,206万6千円(5.5%)の増額となりました。

公債費は、1,827万9千円(0.9%)の減額となりました。

投資的経費は、給食センター整備事業費などの増により13億4,926万3千円(54.8%)の増額となりました。

物件費は、3,161万1千円(1.3%)の減額となりました。

補助費等は、プレミアム商品券発行事業費などの減により、2億2,297万7千円(14.5%)の減額となりました。

積立金は、地域福祉基金積立金などの増により9,204万2千円(47.4%)の増額、貸付金は、南国地域雇用創出推進協議会貸付金などの減により2,277万7千円(44.4%)の減額、繰出金では、後期高齢者医療保険特別会計繰出金の増などにより2,840万1千円(1.2%)の増額となっています。

歳入

国庫支出金、県支出金、
地方債が増額

歳入総額は、225億7,812万円で、前年度決算額に比べて14億7,949万9千円(7.0%)の増額となりました。

市税では、市民税9,546万1千円、軽自動車税2,607万円の増額となり、市たばこ税2,797万円、税率の見直しなどにより固定資産税1,264万5千円の減額となり、税収全体では対前年度比8,797万2千円(1.5%)の増額となりました。

地方交付税は、対前年度比2億1,748万4千円(4.8%)の減額となりました。

国庫支出金は、学校施設環境改善交付金などの増により、対前年度比4億7,626万円(12.4%)の増額となりました。

県支出金は、木材加工流通施設等整備事業費補助金などの増により対前年度比2億6,783万円(13.7%)の増額となりました。

地方債は、学校教育整備事業債などの増により、対前年度比6億4,674万9千円(38.3%)の増額となりました。

●普通会計とは？

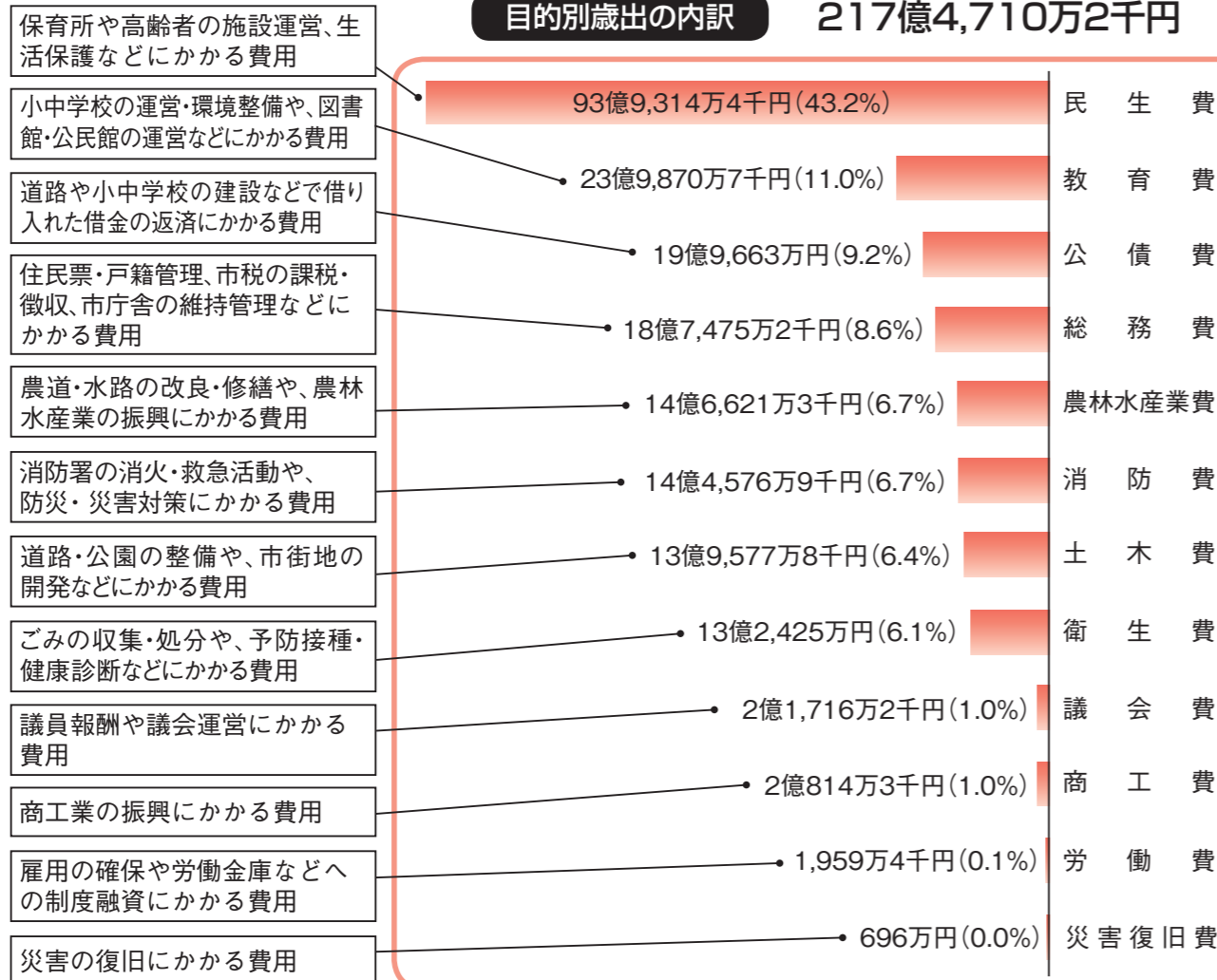
一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・土地取得事業特別会計の合計額から、繰り入れや繰り出しなど、会計間の重複額を控除した統計上の会計区分です。

●経常収支比率とは？

地方税や普通交付税などの経常一般財源収入のうち、人件費や扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費にどれだけ充当されたかを示すもの。比率が高いほど、財政構造の硬直化が進んでいることを表します。

用語解説

目的別歳出の内訳 217億4,710万2千円



歳入の内訳 225億7,812万円

